

平成 30 年度日本医学放射線学会北日本地方会

秋季世話人会 議事録 (案)

日 時：平成 30 年 10 月 27 日 (土) 13:00~13:30

場 所：良陵会館 1 階 ラウンジ

出席者：青木昌彦、青山英史、有賀久哲、石井士朗、伊藤浩、江原茂、小川芳弘
小田野行男、小野修一、織内昇、鹿戸将史、木下俊文、工藤與亮、古泉直也
小山周樹、齋藤春夫、佐藤明弘、宍戸文男、神宮啓一、菅井幸雄、鈴木義行
高瀬圭、高橋聡、高橋昭喜、竹川鉦一、武田賢、田村亮、中村隆二、根本建二
畠中正光、日向野修一、星宏治、細矢貴亮、松下晴雄、松本恒、山崎哲郎
吉村宣彦 (代：石川浩志)

(敬称略、五十音順)

議 題

1. 当番世話人挨拶

当番世話人である東北大学大学院医学系研究科・医学部保健学科放射線治療学 武田賢 世話人より挨拶があった。参加者は世話人会開始時点で 180 名超とのことであった。

2. 前回 (第 138 回) 議事録確認 【資料 1】

特に意見はなかった。

3. 報告事項

1) 理事会動向

(1) 高瀬 圭 世話人より下記報告があった。

①専門医制度委員会に関連して、指導者講習会、必須講習会、領域講習会を地方会に併設した形で開催するために、事前に申請して認定される必要があること。また、各地方で開催されている研究会を認定講習に認めてもらう場合にも申請が必要であることが報告された。論文の査読でもポイントが加えられることが確認された。

②放射線科専門医コースの研修状態についての報告があった。東京での研修集中の傾向が報告され、医療への Ai 導入予測に関して放射線診断医への影響に対して negative にとられないよう注意が必要であるとの見解が示された。

③放射線科のサブスペシャリティの機構認定に関して、乳癌学会、IVR 学会や

核医学会など複数学会の2階建て部分にまたがる領域の構造についてどのように扱うか協議中であること、IVR学会や核医学会は機構認定に申請する予定であることが報告された。

④教育委員会より現時点では e-learning は機構認定とはならない事、e-learning のコンテンツを会場で放映して入退室管理を厳格に行えば認定となる可能性があること、研修の難しい超音波、消化管、胸部 X 線、骨軟部などの e-learning 作成が検討されていることが報告された。

⑤アジアオセアニア放射線学会を4月の総会との同時開催が検討されているが秋季大会との同時開催となる可能性もあることが報告された。

⑥編集委員会より J J R での状況としてアクセプト率 20%前後（日本からは 50%前後）DL 数は順調に増加していること、Ai 特集が予定されていることなど報告があった。

⑦ガイドライン委員会からガイドラインの次回の改定が 2021 年秋予定と報告

⑧ストチウム、Au の線源供給が不安定であることについて現状報告があった。

⑨臨床放射線技師による放射線診断レポート補助や造影剤投与について、講習会が技師学会で行われている事などが報告された。また放射線技師による読影という理解がされる恐れについての見解が述べられた。また、この件に関する臨床放射線技師に対する教育や臨床現場での現況に関して、齊藤 春夫 世話人より解説があった。

(2) 根本 建二 世話人より下記報告があった

①専門医に関する領域講習認定の申請方法が十分な準備や周知がされていないことについて指摘があった。

高瀬委員により、学会から随時申請書を受け取って申請する状況であることが説明された。

②広告、標榜可能な専門医に関しての報告

放射線診断専門医、放射線治療科専門医という届け出がされておらず、放射線科専門医、核医学専門医として届けられている現状に変わらないこと、厚生労働省と折衝中であるが、更新の際に診療実績の確認が必要であることなどから変更にはもう少し時間が必要とのこと。

③学会などにおける IC カードを用いた必須講習、領域講習の受講 check システムの変更が準備されているとのこと報告された。

④今年度の更新は 8 割程度が学会認定方式、2 割程度が機構更新であったと報告された。専門医更新基準についての説明など高瀬世話人からの解説を含め、再度確認があった。

伊藤浩世話人より、研究会の機構認定について質問があり、高瀬世話人より細かい基準（学会ホームページの更新既定に詳細に記載があるとのこと）の説明があった。

2) 各種委員会報告

特に報告なし。

3) 第 140 回春季地方会案内 (弘前大学・青木 昌彦 世話人)

2019 年 6 月 22 日 (土) 弘前市 アートホテル弘前シティ
青木 世話人より挨拶があった。

4) 第 141 回秋季地方会案内 (東北医科薬科大学・小山 周樹 世話人)

2019 年 10 月 11 日 (金)、12 日 (土) 仙台市 良陵会館
小山 世話人より挨拶があった。

4. 協議事項

1) 第 142 回春季地方会当番世話人について前回に引き続き協議を行った。

北海道→ 新潟→ 福島→ 秋田→ 北海道→ 山形→ 岩手→ 青森

126 回 128 回 130 回 132 回 134 回 136 回 138 回 140 回

(北大 玉木先生)

(札幌医大 畠中先生)

地域的順番から北海道の施設が候補と考えられ、札幌医科大 坂田 耕一 世話人を推薦する意見があり、承認された。(本日 坂田 世話人が欠席のため、代表世話人より今後打診の予定)

2) 第 143 回秋季地方会当番世話人について

東北大学放射線腫瘍学分野 神宮啓一 当番世話人 が前回提案されており
これが確認された。

3) 規約の改定箇所

地方会会費が廃止されたことに伴う変更に関して下記の如く提案され、
承認された。【資料 2】

・ 138 回春季大会世話人会での 改定箇所確認

第 16 条 1. 地方会会費 ⇒ 1. 年会費割当金

第 17 条 地方会費は細則に定める。 ⇒ 削除

・ 今大会改定箇所 (資料 2 の赤字部分)

第 5 条 2. 会員は年会費を納入するものとし、会費の額は細則に
定める。⇒ 削除

第 6 条 2. 会員が会費を滞納した時、または会の名誉を傷つけたり、会の目的に反する行為のあったときは、世話人会の議決を経て、代表世

話人はこれを除名することができる。⇒
公益社団法人日本医学放射線学会定款第3章第11条に準ずる要件に該当するときは、世話人会の議決を経て、代表世話人はこれを除名することができる。

第7条 名誉会員はこの会費を免除される。⇒ 削除

4) 世話人会退会希望について

坂本 澄彦 先生(東北大学名誉教授)より退会希望があったことが報告され、退会が了承された。

5) 名誉会員として、事前に武田 賢 世話人より山田章吾世話人が推薦されており、承認された。また、小田野 行男 世話人も名誉会員として承認された。

6) 新世話人推薦

江原 茂 世話人より、田中 良一 先生(岩手医科大 歯学部放射線科教授)が推薦され、承認された。

5. その他

1) 鹿戸 将史 世話人より、北日本臨床研修医・医学生のための放射線セミナー 開催実績の報告【資料3】があった。

2) 高瀬世話人より、次回よりミッドウィンターセミナーを仙台で開催するという案が出ていること、仙台開催に関するアンケート調査を今地方会で行うことが説明された。畠中世話人より1月末の開催であること、参加者の数が少ないのではないかという懸念がある事など追加説明があった。

平成 30 年度日本医学放射線学会北日本地方会

春季世話人会 議事録

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土） 12:00～12:30

場 所：いわて県民情報交流センター アイーナ 8F 会議室 804B

出席者：青木昌彦、青山英史（代：海津元樹）有賀久哲、伊藤浩、今井茂樹、
江原茂、小川芳弘、小野修一、鹿戸将史、木下俊文、工藤與亮、
齋藤春夫、齋藤陽子、志賀哲、宍戸文男、清水伸一、神宮啓一、高瀬圭、高橋聡、
武田賢、田村亮、津田雅視、寺江聡、中里龍彦、根本建二、
橋本学、畠中正光（代：永倉久泰）、日向野修一、福田寛、松下晴雄、
麦倉俊司、吉岡邦浩、吉村宜彦、和田仁

（敬称略、五十音順）

議 題

5. 当番世話人挨拶

当番世話人である岩手医科放射線腫瘍学科大学有賀久哲世話人より挨拶があった。参加者は世話人会開始時点で 146 名とのことであった。他学会開催と重複の影響があったようだとのこと。

6. 前回（第 137 回）議事録確認

特に意見はなかった。

7. 報告事項

ご逝去された 3 名の先生方に対し黙祷が捧げられた。

高橋 康二先生 世話人

平成 30 年 2 月 2 日ご逝去

松岡 昭治先生 世話人、名誉会員

平成 29 年 12 月 19 日 ご逝去 享年 88 歳

森田 穰（みのる）先生 北海道大学名誉教授

平成 30 年 5 月 19 日 ご逝去 享年 78 歳

お別れの会を 7 月 29 日に予定（札幌グランドホテル）

詳細は後日連絡とのこと

1) 理事会動向

根本建二世話人より報告があった

① 広告、標榜可能な専門医についての報告

放射線診断専門医、放射線治療科専門医という届け出がされておらず、放射線科専門医として届けられているのが現状とのことであった。今後変更届け出を検討中。

② 読影レポート未読問題についての説明

厚労省が本腰を入れて取り組んでいる状況。全国病院長会議などでも問題解決に向けて協議が行われている。各施設の対応例なども紹介があった。

③ 専門医更新基準についての説明

診断専門医、治療専門医を更新すれば1階部分は自動更新とすることが認められているが、現時点では2階建て部分の更新基準が公開されていないため更新手続きに混乱が出ている。改善されるよう要求している。本年度は旧制度での更新でもやむを得ないであろう。

本年は現状では学会認定での更新もやむを得ないであろう。

④ 画像診断管理加算3について

現在35の施設で申請が出ている。収入増加につながり、整備指針にのっとって準備を行い、積極的な体制を作ることが望ましいと思われる。

高瀬圭世話人から追加発言

日医放理事に北日本から2名選出されたことに感謝の意が表された。

2) 各種委員会報告

伊藤浩世話人より用語委員会に関して報告があった

用語集の改訂が行われ、ホームページ上から用語検索ができることが紹介された。

3) 第139回秋季地方会案内（東北大学・武田 賢 世話人）

2018年10月27日（土）仙台市 良陵会館

武田世話人より挨拶があった。

4) 第140回春季地方会案内（弘前大学・青木昌彦 世話人）

2019年6月22日（土）弘前市 アートホテル弘前シティ

青木世話人より挨拶があった。

5) 第141回秋季地方会案内（東北医科薬科大学・小山周樹 世話人）

小山世話人が欠席にて、田村亮世話人より挨拶があった。

8. 協議事項

1) 第142回春季地方会当番世話人について協議を行った。

（仙台以外の開催に関して直近の当番は下記）

北海道→ 新潟→ 福島→ 秋田→ 北海道→ 山形→ 岩手→ 青森
126回 128回 130回 132回 134回 136回 138回 140回
(北大 玉木先生) (札幌医大 島中先生)

代表世話人より地域的順番から北海道の施設が候補と考えられ、旭川医大はどうかとの提案があったが、次期教授就任時期の問題もあり、次回世話人会で再度協議することとなった。

2) 第143回秋季地方会当番世話人について

仙台総合放射線クリニックの案も出たが、神宮世話人が立候補し東北大学放射線腫瘍学分野担当ということが承認された。

3) 新世話人推薦

及川 茂夫 先生 (岩手県立中央病院 放射線診断科科长)

岩手県立中央病院放射線科 佐々木康夫世話人より事前に推薦があり、承認された。

石井 士朗 先生 (福島県立医大准教授)

福島県立医大 伊藤浩世話人より推薦があり、承認された。

加藤健一先生 (岩手医大准教授)

岩手医大 江原茂世話人より推薦があり、承認された。

4) 平成30年度事業計画

定期学術集会開催 (138回春季、139回秋季)

北日本臨床研修医・医学生のための放射線セミナー (6月23日午後) 開催
が事業計画として予定されていることが報告され、承認された。

5) 収支報告

日医放本部に会計監査依頼済みであることが報告された。現在まで特に指摘事項はなく、本会でも承認された。

6) 世話人会退会希望について

笹野 高嗣 先生 (東北大学 歯学部名誉教授)

田村 元 先生 (東北大学 保健学科名誉教授)

いずれも本人より退会希望があったことが報告され、本会にて承認された。

7) 日本医学放射線学会見た日本地方会規約の改定の提案

第16条 1. 地方会会費 ⇒ 1. 年会費割当金 への変更

第17条 地方会費は細則に定める。 ⇒ 削除

が提案された。

福田寛世話人より、第7条の会費免除の項も削除されるべきとの指摘があり、承認された。また、後に小川世話人より第5条の2の削除の提案もだされた。さらに要訂正箇所があるようであったため、次回に再度提案することとなった。

8) その他

①永倉世話人代理より

専門医会地方会設立について準備中であるとの現況の報告があった。まだ確定していない事項が多く、詳細は次回以降に島中世話人より報告予定とのこと。

②高瀬世話人より

第7回北日本臨床研修医・医学生のための放射線セミナー

平成30年6月23日(土)12時30分～いわて県民情報交流センター アイーナ 8F 会議室 803 にて行われること、旅費の補助は各施設にてまかなっていただいていることが報告された。リクルートの機会として有用であるため、今後も引き続き開催予定であることなども報告された。

③伊藤世話人より

地方会開催時期について、次回も米国核医学会と本会が重複してしまっているため、次回以降配慮してほしいとの意見が出された。

9. その他

特になし

【資料2】

日本医学放射線学会 北日本地方会規約

名称

- 第1条 1. この会は日本医学放射線学会北日本地方会と称する。
2. ここに北日本地方会とは北海道および青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島、新潟県をいう。

事務所

- 第2条 この会の事務所を仙台市青葉区星陵町1番1号 東北大学病院放射線科に置く。

目的

- 第3条 この会は日本医学放射線学会の地方会として、北日本地方における放射線医学およびこれに関連する研究の連絡提携および促進をはかり、もって学術の発展に寄与することを目的とする。

事業

- 第 4 条 この会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
1. 定期学術集会など学術的会合の開催
 2. その他、目的達成に必要な事業

会員

(赤字は変更前の文言)

- 第 5 条 1. この会は第 3 条の目的に参画する日本医学放射線学会の会員および北日本
地方会役員が認めたものにより組織される。
2. 会員は年会費を納入するものとし、会費の額は細則に定める。
- 第 6 条 1. 会員が死亡し、または退会を希望したときはその資格を喪失する。
2. 会員が会費を滞納した時、または会の名誉を傷つけたり、会の目的に反する行為のあったときは、世話人会の議決を経て、代表世話人はこれを除名することができる。
- 第 7 条 世話人会は世話人会経験者で 70 歳以上の会員を地方会名誉会員として推薦し、
地方会総会の議決により定められる。名誉会員はこの会費を免除される。

役員

- 第 8 条 この会の役員として代表世話人 1 名（神宮啓一）、世話人若干名をおく。
- 第 9 条 1. 世話人は会員より選出されるものとする。
2. 世話人の任期は 2 年とし、再任をさまたげない。
 3. 世話人は世話人会を組織し、この会の重要な事項を審議するとともに、目的達成のための業務を担当する。
- 第 10 条 1. 代表世話人は世話人の互選による。
2. 代表世話人はこの会を代表し、会務を総理し、総会および世話人会の議長となる。
 3. 代表世話人に事故あるとき、または欠けたときは、世話人会の議決を経て代行者を定める。

会議

- 第11条 総会は定期総会および臨時総会に分ける。
1. 定期総会は毎年度第1回定期学術集会開催時に代表世話人が招集する。
 2. 臨時総会はその他の定期学術集会開催時に代表世話人、または世話人の5分の1以上の発議によって招集することができる。
 3. 総会の議長は代表世話人が務める。
- 第12条 定期総会には次の事項を提出し、報告しなければならない。
1. 事業計画および収支予算についての事項
 2. 事業報告および収支決算についての事項
 3. 財産目録
 4. 世話人会で審議された事項
 5. その他
- 第13条 臨時総会には次の事項を提出し、報告しなければならない。
1. 世話人会で審議された事項
 2. その他
- 第14条 世話人会は定期学術集会開催時に開き、運営上必要な事項を審議し、毎年度第1回の世話人会においては次の事項を審議し、承認を受けなければならない。
1. 事業計画および収支予算についての事項
 2. 事業報告および収支決算についての事項
 3. 財産目録
 4. 世話人提案事項
 5. その他
- 第15条 世話人会の議決は出席世話人の2分の1以上の同意を得なければならない。

地方会運営経費

- 第16条 この会の運営経費は次の収入をもってあてる。
寄付金、その他の収入

会計

- 第18条 1. 会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。
2. 本部への会計報告が義務化され、地方会としての会計監査は不要となった。

附貝

- 第19条 この規約は昭和47年9月26日から施行する。
- 第20条 この会は社団法人日本医学放射線学会の組織の一部とし、理事会の承認を得て成立するものとする。
- 第21条 この規約成立の際の旧北日本地方会役員および会員は、そのまま本会に引き継がれるものとする。
- 第22条 この会の規約の改正、役員の変動事項については日本医学放射線学会会長あて速やかに報告することとする。
- 第23条 この規約の変更は平成13年6月15日から適用する。

糸田貝

- 第25条 本部での一括管理となるため地方会の年会費徴収がなくなった(平成23年6月17日改定)
- 第7条 世話人会経験者で70歳以上の項目を追加(平成20年6月6日改定)
- 第18条 2. 会計システム変更により従来と変更となった(平成24年6月29日改訂)
(下線部分の変更・追加事項です。)

第16条1. 地方会での年会費徴収はなくなったため、年会費割当金とした（平成30年6月23日改訂）

旧第17条 地方会費は細則に定める。⇒ 削除（平成30年6月23日改訂）

【資料3】

北日本臨床研修医・医学生のための放射線セミナー 開催実績報告

◆参加者◆

	第1回 (札幌)	第2回 (新潟)	第3回 (福島)	第4回 (秋田)	第5回 (札幌)	第6回 (山形)	第7回 (岩手)	合計
参加人数	30名	21名	31名	32名	34名	28名	22名	198名
のちの 入局者	11名	8名	13名	4名	5名	2名	—	43名

※複数回参加者は、一番最初の参加回にカウント。当日の飛び入り参加も含めた人数。

◆経費◆（単位：円）

	第1回 (札幌)	第2回 (新潟)	第3回 (福島)	第4回 (秋田)	第5回 (札幌)	第6回 (山形)	第7回 (岩手)
旅費	368,230	370,070	694,440	617,210	795,920	590,682	—
印刷費	0	9,765	10,044	10,044	8,640	8,640	8,208
通信費	4,101	6,110	8,780	5,678	5,880	8,179	8,760
その他	6,825	30,058	33,472	21,878	42,230	33,120	10,000
合計	379,156	416,003	746,736	654,810	852,670	640,621	26,968

※その他→事務用品代、賞品代など。第7回からは旅費については各大学負担。

第1回：平成24年6月30日（土） 札幌市 北海道大学 学術交流会館

第2回：平成25年6月15日（土） 新潟市 新潟大学駅南キャンパス ときめいと

第3回：平成26年6月28日（土） 福島市 コラッセふくしま

第4回：平成27年6月27日（土） 秋田市 にぎわい交流館AU

第5回：平成28年6月18日（土） 札幌市 ホテルさっぽろ芸文館

第6回：平成29年6月17日（土） 山形市 山形テルサ

第7回：平成30年6月23日（土） 盛岡市 アイーナ